

農業



平成28年7月号

会誌 No. 1614

目次

巻頭言

農業経営の目標……………石塚 虎雄 3

論 壇

大学の社会貢献……………上田 一郎 4

◻先進的農業経営研究会◻

関東地域の大規模水田作経営の事例…………… 6

－わが国農業を先導する先進的農業経営研究会（第10回会合）－

話題提供……………山崎 能央 6

質疑応答・意見交換…………… 12

◻農事功績者座談会◻

ポインセチア等鉢花専作経営…………… 20

私の経営と農業への思い……………平野 和実 20

現地指導者のコメント……………和田 朋幸 30

意見交換…………… 32

◻寄稿◻

大麦の機能性に着目した食品開発……………東海林 義和 39

農業・農村の現場から

私の小さなフランス……………小林 由美 49

世界の農業は今

EU（欧州連合）の酪農政策……………木下 順子 54

－生乳クオータ制度廃止と「酪農パッケージ」の概要－

私の経営と志

逆転の発想で島から世界へ……………田中 健大 59

農政情報

…………… 61

大日本農会だより…………… 62

ミニ情報

「海外における日本料理の調理技能の認定に関するガイドライン

(概要)」…………… 19

「海外における日本産食材サポーター店の認定に関するガイドライン

(概要)」…………… 61

表紙写真説明

乳牛の放牧（北海道上川郡清水町）

北海道上川郡清水町は北海道十勝平野の西部に位置しており、耕種農家（畑作、野菜作等）と畜産農家（酪農、肉用牛等）が存在し、多様な農業生産が展開されている。その中でも酪農については、乳牛飼養頭数および個体乳量の増加等、規模拡大を進めている経営のみならず、放牧を行いながら現在の経営規模を維持し、購入飼料費の削減や労力の軽減を図る経営等、多様に展開している。

乳牛の放牧は、4月下旬から11月上旬まで行われている。季節および牧草地の草量によっては、搾乳時以外は放牧する昼夜放牧、3時間もしくは6時間等、時間を決めて放牧する時間制限放牧が行われる。放牧地には牧柵（電気牧柵が多い）、飲水場が設置され、牛や人の移動に用いる通路も整備されている。放牧地の草種として、ベレニアルライグラス、メドウフェスク等、栄養価が高く、かつ再生力が強いものが適している。

放牧した乳牛から搾乳された生乳は、黄色みが強く、ビタミンEとβカロテンが多い等の特徴があり、これらを生かしたチーズ生産、販売を行っている事例も存在する。

（写真提供：農研機構北海道農業研究センター 藤田 直聡氏）